

ためにも有効的な原木供給をするべきでは。
○ 平成30年度は34000本を見込んでいる。原木を供給する際、放射能の調査に慎重を期しているが、出荷の際に数値が高かったりするので引き続き県と協議していく。

市内2高校を堅持

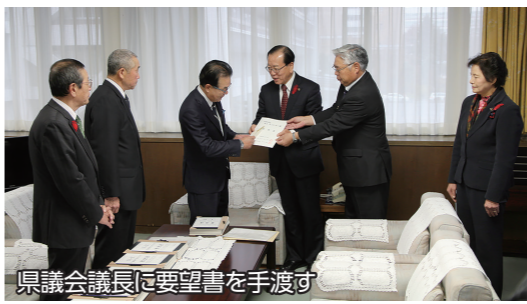
○ 高校魅力化サポート事業の内容は。
○ グローバルな人材の育成や資格の取得など、魅力化アクションプランに基づき、県立高校再編計画に対抗する市内両校への支援。平成30年度は、新たに通学支援補助事業に取り組む。

○ 補助内容は。
○ 市内2校の生徒に対し、通学定期券購入費の半額を補助するもの。継続的事業として

制度化を図りたい。

○ 県教委の再編判断要件は。
○ 地方創生に関する地域の取り組みと入学者数の推移、生徒増が存続の最も大切な条件である。

○ 追加支援策を打ち出す考えは。
○ 下宿生への補助のあり方や高校給食の導入など様々な角度から議論がなされ、当初予算案に本事業を組み立てた。両校の存続に向けた、効果的な支援方法のあり方について協議を重ねる。



県議会議員に要望書を手渡す

共生社会の実現を目指す。交流事業を

○ ホストタウンとしての取り組みは。
○ パラリンピック競技ブライインドサッカー（視覚障がい者5人制サッカー）の合宿誘致を進める。

○ 7月に競技団体関係者が視察に訪れるので、意見を基にバリアフリー等の環境整備を進めたい。また、パラリンピック選手を招いての心のバリアフリー、ブラジルについての国際理解に取り組む。締結書や覚書の取り交わしについては、検討中である。

○ 高齢者や障がい者とその家族が、暮らしやすくなったと実感できるものでなければならぬ。関係部課の連携を重ねる。



提供：日本ブラインドサッカー協会

○ 携が必要では。
○ 共生社会ホストタウンの登録も目指し取り組んでいる。しっかりと連携し共通認識を持って取り組む。

○ 事業を通して、何を残すか。
○ 「スポーツの力で、感動・勇気・活力を。誰もが活躍できる共生社会の実現を。文化を通じて、世界とつながる」を理念に、次の世代へ残したい。

○ 全国的に介護人材の確保が問題となっているが、市内の施設での確保の実態は。
○ 今のところ、事業所では確保ができていないと理解しているが、

○ 介護保険事業運営で人材の確保は万全か
○ 平成30年度は、設計と改修工事を行う。プレオープンは平成31年3月を予定し、本格オープンは4月を考えている。

○ 介護保険事業運営で人材の確保は万全か
○ 全国的に介護人材の確保が問題となっているが、市内の施設での確保の実態は。
○ 今のところ、事業所では確保ができていないと理解しているが、

カフェレストランのあり方を問う

議員問討議で論点整理

○ 議決機関である議会には、「議決責任」と、議案審査の経過から議決結果について、市民への「説明責任」があります。

○ 平成28年度から取り組む議会改革の一環として、その「責任」を果たすための会期日程の見直し、昨年12月定例会からされています。

○ 予算委員会等の前で、議案内容の十分な理解を図る「常任委員会調査」を行い、三つの常任委員会（総務・教育民生・産業建設）ごとに、当局から聞き取りを行っています。委員会調査において明らかにした議案の疑問点、意見の分かれ

る論点を、議会全体で理解をするため、常任委員会調査の翌日には議員全員協議会を行います。今定例会の議員全員協議会では、補正予算案に計上された「遠野みらい創りカレッジ改修整備事業費、7825万円」について、論点整理を行いました。
【討議内容】
○ レストランの利用者を、カレッジ利用者以外にも求めるのか。
○ 整備をする市と運営するカレッジの負担のあり方は。黒字経営が見込めるのか、近隣施設と競合しないのか。地域住民との合意形成は取れているのか。
○ 市とカレッジ間の



カレッジで行われた五日市マルシェの様子

○ 賃貸借の形態、経営リスクの考え方を明確にすること。
○ 小さな拠点づくり事業との整合性を図ること。
○ 旧土淵中の活用計画には、早くからレストラン運営の構想があった。

○ 交わされた質疑、意見を基に、予算等審査特別委員会においてより具体的な質疑が展開されました。（以下の記事参照）

○ 質疑が集中
○ 旧土淵中校舎の活用事業で、地元農産物を使用したカフェレストランとミニ産直施設の整備計画。

○ 事業の内容は。
○ 旧土淵中校舎の活用事業で、地元農産物を使用したカフェレストランとミニ産直施設の整備計画。

○ 整備にかかる遠野市の負担は。
○ 国の交付金を活用し、市債と合わせた遠野市の負担は約2730万円。

○ 事業のねらいは。
○ 現在、みらい創りカレッジの年間利用者は約7千名で、交流人口の拡大や人材育成を図る一方、経済効果も生み出してきた。カフェレストラン運営を取り入れ、さらなる経済の活性化を図る。

○ 国道340号立丸ト古方面からの玄関口となり、おもてなしの機

能強化につながる。

○ 事業スケジュールは。
○ 平成30年度は、設計と改修工事を行う。プレオープン

○ 平成30年度は、設計と改修工事を行う。プレオープン

○ 運営主体、市の責任は
○ レストランの運営主体は。

○ 一般社団法人遠野みらい創りカレッジが運営する。昨年、五日市マルシェでレストランの運営実証実験を行い、地元の利用が見込めることから、今回の事業に至った。

○ 収支計画はどうなっているのか。
○ 収支は黒字を前提に、初年度の収益を300万円の目標設定。年毎に100万円の収益を伸ばし、独立採算

○ 収支は黒字を前提に、初年度の収益を300万円の目標設定。年毎に100万円の収益を伸ばし、独立採算

で運営する。

○ 地元の理解が必要
○ 近隣施設との関係は。
○ 競合しないメニューを提供し、近隣施設への波及効果も高まると考えている。

○ 地域住民や関係団体とのコンセンサス（合意）を早く得るべきでは。
○ 地域の区長会への説明会を早急に実施し、地域の理解を得て、住民も参加していただけるよう進める。



旧土淵中学校校舎を活用したみらい創りカレッジ